

全国で起きた大気汚染

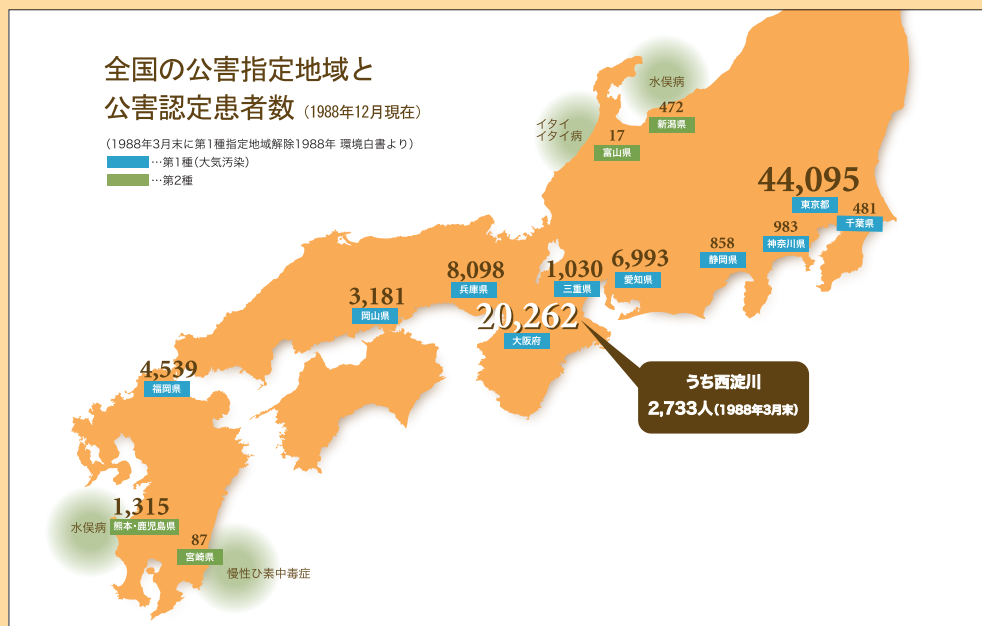
第二次世界大戦後、1955年ごろから高度経済成長期に入り、エネルギーの消費量は10年間で約3倍になりました。臨海部の工業地帯や大都市を中心に工場から排出される硫黄酸化物（SOx）などが原因で、たくさんの方がぜん息などの呼吸器の病気になりました。

そのような中、四大公害裁判のひとつである四日市公害訴訟では、大気汚染を発生させた工場群の責任を認め、原告被害者側勝訴の判決が出されました（1972年）。この判決が政府や産業界に及ぼした影響は大きく、1973年には公害健康被害補償法が制定され、1978年には全国で41の地域が大気汚染による公害指定地域とされました（第1種地域。1988年にすべて解除）。また、1974年には大気汚染防止法が改正され、硫黄酸化物（SOx）総量規制が導入されました。

その結果、現在では、硫黄酸化物（SOx）を中心とする著しい大気汚染は減りましたが、自動車の交通量が増えたことにより特に大都市を中心とした窒素酸化物（NOx）やPM2.5などの浮遊粒子状物質（SPM）の対策が必要です。

また世界では、アジア地域など急速な都市化と工業化をとげつつある諸国を中心に、窒素酸化物（NOx）や二酸化炭素（CO₂）、PM2.5等の大気汚染物質の排出量が増大しています。

こうした問題に対処するために私達は、このような大気汚染の現状と対策に対する理解を深め、協力して、ひとりひとりができることから取り組んでいく必要があります。



エコミューズ展示パネル 「公害～みんなで力をあわせて」より

<参考文献>

- 『西淀川 公害をなくせ 一人間の生命と健康はもっとも尊い』西淀川から公害をなくす市民の会 / 西淀川公害患者と家族の会 / 大阪市教職員組合西大阪支部 / 西淀川大気汚染問題研究会 (弁護士) / 淀川勤労者厚生協会＝発行、1976年
- 『手渡したいのは青い空』西淀川公害訴訟原告団＋弁護団＝編著、清風堂書店、1989年
- 『大気汚染と公害被害者運動がわかる本 / 大気汚染公害Q & A』あおぞら財団＝編集・発行、全国公害患者の会連合会＝協力、1999年
- 『西淀川公害を語る 公害と闘い環境再生をめざして』西淀川公害患者と家族の会＝編、本の泉社、2008年
- 『西淀川公害の40年 維持可能な環境都市をめざして』除本理史 / 林美帆＝編著、ミネルヴァ書房、2013年
- 独立行政法人環境再生保全機構 WEB サイト『大気環境・ぜん息などの情報館』『記録で見る大気汚染と裁判』